

秦野の霊園開発地周辺

ノスリが営巣放棄



電線に止まり、周囲を見つめるノスリ＝長野県小諸市の千曲川沿いで2015年4月、武田博仁撮影

秦野市渋沢の八国見山(319㍍)南面区域で進む霊園開発地周辺で昨年営巣した猛きん類タカ科「ノスリ」が、今年は同じ場所での営巣を放棄していたことが分かった。開発に反対する自然保護の市民グループ「渋沢丘陵を考える会」(日置乃武子代表)メンバーが現地周辺の観察でノスリがあまり見られなくなったため、県と市に問い合わせたところ、事業者の「相模メモリアルパーク」(愛川町)などから営巣放棄の報告を受けたことを明らかにしたという。

【高橋和夫】

ノスリは県レッドデータリストで絶滅危惧種に指定されている。三浦丘陵から八国見山のある渋沢丘陵を含めた大磯丘陵、丹沢山地に生息し、繁殖地は八国見山周辺を含めて県内でも2、3カ所とされている。南面区域の大掛かりな造成工事の影響で、数少な

繁殖地県内数カ所 造成工事の影響か

い繁殖地の一つがなくなる恐れもある。同会によると、ノスリが昨年春に営巣したのは、霊園に通じる進入路建設現場に近い中井町松本地区で、ヒナ1羽が育った。霊園開発が進む昨年秋、同会メンバー数人が開発区域から中井町、大井町にまたがる半径約1500㍍の範囲で定点観測をし、たびたびノスリの飛翔を確認した。昨年11月7日には、同じ場所と時間帯で計9羽を視認。今年1月にもノスリの姿が何度も見られ、今春の繁殖に期待感が広がった。ところが、2、4月にかけて、昨春の営巣地周辺でノスリがほとんど見られなくなった。同会メンバーは「大型重機や土砂運搬車の騒音がひどく、悪化した環境の中ではモグラなどのエサも取れない。ノスリが営巣を放棄するのは当たり前で、工事の影響が大きいのではないかと批判している。